

4-1 アブストラクト・テーブル (抄録一覧表)

[Meta-analysis, systematic review]

抄録 番号	著者 年(新しい順)	Patient	Exposure/Intervention	Outcome
1	Esposito M 1998	ブローネマルクおよび ITI システムのインプラント取り扱った73の文献の患者	Radiographic examination Implant mobility test	ブローネマルクインプラントの生物学的原因による失敗は比較的少ない(2812本のうちの7.7%:骨移植症例を除く)。予知性は部分無歯顎で良い(失敗は全部無歯顎症例の約半分)。上顎症例は下顎に比べ三倍失敗がおきやすい。(全部無歯顎症例では上下で変わらないが。)ブローネマルクシステムでは、部分無歯顎症例にインプラント周囲炎による失敗は少なく、一方で、ITIシステムでは多い。その原因として、インプラントの形態と表面性状の違いが挙げられる。

[DB-RCT, RCT, CCT]

抄録 番号	著者 年(新しい順)	Patient	Exposure/Intervention	Outcome

[cohort study, case control study, case series, case report]

抄録 番号	著者 年(新しい順)	Patient	Parameter	Result
10	Verhoeven JW 2006	重度の下顎骨萎縮症のある13名の患者	移植骨の吸収率	移植骨高径の平均51% (95%信頼区間41-61%)が10-11年後に残存。9名の患者がインプラント周囲炎を起こした。この9名のうち4名において10回の粘膜歯肉の外科的処置が行われた。インプラントは、1本も失われておらず、12名の患者は満足していた。
9	Karoussis IK 2004	包括的な治療を受けた89名の患者	埋入手術後1年後と10年後に臨床的及びレントゲン像上の各パラメータを評価	10年の観察期間後に、中空スクリュー・デザインのITIインプラントは、中空シリンダー・デザインのものに比べ、有意に高い生存率とインプラント周囲炎の有意に低い発症率を示した(95.4%対85.7%、10%対29%)。
5	Heydenrijk K 2003	40名の無菌顎患者(患者20名は、2本のIMZインプラントを1回法で植立。残りの20名の患者は、2本のITIインプラントを植立)	標準化した臨床的診査とレントゲン評価	ITI群では、臨床的パラメータと目標細菌の間に何らかの関連性が認められたが、IMZ群では関連性は認められなかった。
6	Karoussis IK 2003	患者53人、ITIインプラント(HS)112本。 (グループA:Pにより抜歯した患者8人、21本のインプラント。グループB:Pの既往なし患者45人、91本のインプラント)	臨床的及びX線上のパラメータを評価	Aグループのインプラント生存率は90.5%であり、Bグループは96.5%であった。グループAはBよりもインプラント歯周炎の発症率が有意に高かった(28.6%vs5.8%)。成功基準に基づくと、グループAの成功率は52.4%、グループBは79.1%であった。

7	Prosper L 2003	83人(女性44、男性39)、平均年齢46.2±14.3歳 インプラント111本(上顎75、下顎36)	3ヶ月毎(3,6,9,12)4年間評価。 HAグループとMRグループの評価比較	2次Opeまではすべて症状はなかった。 補綴4年後の成功率97.3%(108/111) HAグループ:成功率98.2%(55/56) MRグループ:成功率96.4%(53/55)2グループに有意差なし
8	Ekelund JA 2003	47名(男性14名、女性33名)の歯のない患者。平均年齢53.4歳(34歳~67歳)。1978年~1982年に273本のインプラント(Branemark)		15年以上20年迄機能が維持できた症例では、最近の5年間、大部分のインプラントが合併症無く維持できている。また、インプラント周囲炎進行の兆候を示しているのは、3%以下であった。
3	Mangano C 2001	喫煙や糖尿病を持たない69名(36女33男、平均42歳、16-61歳)に埋入した80インプラント	インプラント術後の臨床的・X線的問題の有無	二次オペ時に、2つのインプラントを骨結合不足により除去した。負荷二年後に、インプラント周囲炎により1つを除去した。さらに、2つのアバットメント破折と1つのアバットメントの緩みを認めた。
4	Hallman M 2001	上顎骨に十分に骨量不足のある40名の患者(女性25名、男性15名、平均年齢:57歳、19歳~86歳)	Panoramic radiograph Marginal born level	182本のインプラントのうち、176本追跡調査できた。1年後の生存率は99.4%で、4本のインプラントにインプラント周囲炎の兆候が見られた。そうすると、成功率は96.4%となる。